

病気がないことを確認して 便秘治療を開始

大腸内視鏡検査で、がんやポリープなどの病気がないと確認できたら、改めて、便秘の治療を始めていきます。

私のクリニックで行っている便秘治療の内容は、基本的に第4章、特に中等症と重症の下剤減量プログラムでお話ししたものが基本になります。これを、患者さんと話をしながら、便秘の症状や患者さんの心身の状態を注意深く観察しつつ、下剤の減量を進めていきます。

私は、「便秘や下剤依存症の治療はオーケストラの演奏と同じ」と常々感じています」と、本書の冒頭に申しあげました。この場合、医師はオーケストラの指揮者です。指揮者次第で、演奏はいかようにも変わります。よい方向へいけば素晴らしい演奏になりますし、逆に間違った方向に行くととんでもないことになってしまいます。便秘治療を正しく行う、自分に合った指揮者を見つけ、じっくりと治療に取り組んでいただきたいと思っています。